

私はこの9月、東京から仙台に赴任しました。そしてすぐに取材したのは福島民報社が主催、郡山市で開いた「ふくしまSDGs博」です。私たちの地域再生大賞も、活動を紹介するブースを出しました。全体で約100のブースが並び、広い会場には子どもから高齢者まで延べ1万6000人が詰めかけました。ブースの中にはSDGsにつながる“持続可能な”地域づくりに、伝統と知恵を生かして取り組んでいる地場企業の姿がありました。

### 生分解性プラスチックで漆器を

そのひとつが会津若松市の三義漆器店。創業は1935年で約80人が働いています。代表取締役の曾根佳弘さんは「ひしめきあう会津塗の中ではまだまだ新しいんです」と話します。同社は、デンプンと乳酸菌でつくる植物由来の「ポリ乳酸樹脂」を素材とした漆器を世界に発信しています。投棄しても分解されず、環境に悪影響をもたらす石油由来のプラスチックと違って、土に埋めると数日で分解して土に戻る特性をもっています。

曾根さんは2019年、中小企業家同友会の講演で、生分解性プラスチックの専門家の話を聞き、ショックを受けました。「地球の現状を目の当たりにした。やらせてください」と頼み込んだそうです。ポリ乳酸樹脂は高度な加工技術が必要なのですが、曾根さんはそれまで漆器の土台として、プラスチックを加工する際に使われてきた「射出成形」が役立つのでは、と考えます。

そしてまず杯をつくりました。素材は無色透明で、さまざまな漆職人に自由に彩色してもらいました。「みんなに見てもらおうと採算は度外視して売り出しました」と振り返ります。名付けて「紫翠杯」。環境に優しく、そして美しい。会津塗の伝統技術と、植物性樹脂の最新技術がコラボした製品は海外でも高い評価を受けています。



つながる・ひろげる  
人・企業・組合・地域…

リレーエッセー 109

## 地場だからできる SDGs

共同通信社  
橋田 欣典



●はしだ よしのり  
1963年大分県生まれ。秋田支局、新潟支局、本社社会部、さいたま支局、本社地域報道部、津支局長を経て、2019年秋から地域再生大賞を担当。毎年、全都道府県から推薦が出る50団体について、4人の選考委員とともに活動内容を調査、表彰している。2022年9月から仙台支社で総務を担当。